

分野別プロジェクト「貧困問題」

活動報告

プロジェクトチーム「貧困問題」

貧困対策に関する施策動向等の情報収集、提言

コラム『貧困の風景』

社会保障を妨げる7つの壁

子どもの貧困に感じる違和感

「周産期」から始まる貧困の連鎖

「自己責任論」がダメなわけ

「あゝ上野駅」は今も

信頼の貧困

住まいの貧困

老後の沙汰は金次第

要望・提言等

- 新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえた生活困窮者の居住及び居住環境を保障する対策に係る緊急要請
- 困窮者等の相談体制の構築等に係る提案
- 新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、生活困窮者の医療を保障する緊急の対策を強く要請します
- 新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえた生活保護制度運用の緩和及び即時即応の経済支援措置について（要望）
- 横浜市における不適切な生活保護申請対応を受けた今後の生活保護行政の改善・再発防止に関する要望
- 横浜市における不適切な生活保護申請対応をめぐって ※会員へのメッセージ
- 福岡地裁「生活保護基準引下げ違憲処分取消等請求訴訟」判決に対する声明

貧困に関連するメンタルヘルスの対応策の検討

「女性の貧困」に関するヒアリング

- シングルマザー等にまつわる諸問題に関するもの
- 妊娠等にまつわる諸問題に関するもの

その他

- 千葉県精神保健福祉士協会（権利擁護委員会）研修『自己責任論がダメな理由』への講師派遣

シングルマザー

辻由起子氏（大阪府子ども家庭サポーター）からのヒアリング

10代で結婚・出産、23歳でシングルマザーになりました。
自分の身に起こったことを理解しようと、佛教大学文学部教育学科・同社会学部
社会福祉学科を卒業され、社会福祉士等の資格も取得されました。
その経験をもとに、講演や相談、行政への助言等の様々な活動をされています。
内閣官房「こども政策の推進に係る有識者会議」臨時構成員などを歴任。

社会教育を受ける機会がなかった

手続きが複雑で難しい

根掘り葉掘り聞かれる

相談したら冷淡な扱いを受けた



相談忌避



孤立



手っ取り早いSNSで見知らぬ人に助けを求め、
気がつけば「夜の街」へ。そして避妊も中絶もできない……

貧弱な居住福祉政策を始め、**使い勝手の悪い制度**を変えなければならない。

心の前に**身**の安全と**生活**の安定を確保し、相談できるように**言語化**を支援する必要がある（特に行政は、相談しやすくするための配慮や工夫を！）。

シングルマザー



寺内順子氏（一般社団法人シンママ大阪応援団代表）からのヒアリング

佛教大学社会学部社会福祉学科卒業後、豊中の障害者施設に勤務されました。1991年に大阪社会保障推進協議会に入局され、現在は事務局長をされています。主な著書に『「大丈夫？」より「ごはん食べよう」』など。



つながる

相談にはすぐにリターン

食料の提供(発送)

拠点ZIKKA(集まり)

シングルマザー



寺内順子氏（一般社団法人シンママ大阪応援団代表）からのヒアリング

佛教大学社会学部社会福祉学科卒業後、豊中の障害者施設に勤務されました。1991年に大阪社会保障推進協議会に入局され、現在は事務局長をされています。主な著書に『「大丈夫？」より「ごはん食べよう」』など。



つながる

相談にはすぐにリターン
食料の提供(発送)
拠点ZIKKA(集まり)

コロナ禍で、女性の困窮や孤独も増すばかり。せめて **食事** を！

透明性がなく、手続保障も不十分な緊急対策ではなく、**平時の制度の見直し**こそ必要ではないか。特に、子どもに関する経済支援の薄さと狭さは看過できない。ワーキングプアを生み出す**最低賃金の低さ**も深刻である。

シングルマザー

ディスカッション

- 行政を始めとした、受付・相談窓口の対応のまずさ
- 貧困問題への差別的意識や偏見：生活保護への忌避感、自己責任論等
- 相談や支援につながる能力（を育む機会）の欠如



使えない制度

相談できない窓口

- ★行政に**分かりやすい**制度や窓口の広報を求めていかなければならない。
- ★「**助けを求めてみよう**」と思える社会にしていかなければならない。
- ★実際に使える制度（**使いやすい制度**）を作っていかなければならない。

- ★少なくともクライアントを**傷つけない**相談をしなければならない。
- ★つながれるところからつながり、**つながりを広げる**相談をしなければならない。

妊娠

中島かおり氏（特定非営利活動法人ピッコラーレ代表）からのヒアリング

東京都立大学理学部生物学科修士課程修了後、研究職として働かれました。第2子出産をきっかけに、助産師（看護師・保健師）となりました。昨年にはチャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞を受賞されています。主な著書に『漂流女子 にんしんSOS東京の現場から』など。

避妊を選択できない場合がある
予期せぬ妊娠の相談をしにくい
中絶に対する偏見が根強い
出産や中絶への経済支援が足りない
パートナーがいなくなった
妊婦等を保護できる施設等がない



妊娠葛藤



孤立



セクシャルリプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）を！

誰にでも性と生殖のあり方を選択する権利が保障されなければならない。
そのためには、社会の固定観念や非寛容を改め、妊娠に関する教育、避妊方法の選択、安全な中絶等を含めた妊娠葛藤に対する支援の充実をさせなければならない。

まとめと今後

現状

- 社会全体の仕組みの問題として、貧困が偏在し、根強い偏見があった。
- コロナ禍は、その歪みを拡大させた。
- 中でも被害を受けやすかったのが**女性**であり、とりわけ**妊娠出産育児**における社会的支援の貧弱さが露呈した。

課題

- 女性の貧困問題を考える際に、周産期等の支援は大きなキーワードになる。
- 一方で我々精神保健福祉士は、必ずしも**周産期**や**児童期**のメンタルヘルスに精通しておらず、その活動領域の拡大は急務である。
- そのためには、ソーシャルワーカーにとって最も基本的な課題の一つでもある貧困問題を踏まえつつ、女性や周産期、子育てや児童期等のメンタルヘルスに対応できる**人材**を育成していく必要がある。

勉強会のねらい

- 我々精神保健福祉士の活動が低調な当該分野に関する**問題意識を喚起**し、ソーシャルワーカーとして何をすべきかを考える契機とする。

分野別プロジェクト「貧困問題」メンバー

役職	氏名	勤務先	所属支部
リーダー	柏木 一恵	浅香山病院	大阪府
チーム員	原 昌平	相談室ぱどる／ぱどる行政書士事務所	大阪府
チーム員	野村 恭代	大阪市立大学	大阪府
チーム員	小関 清之	秋野病院	山形県
チーム員	中島 宗幸	堺市（南保健センター）	大阪府
チーム員	加藤 雅江	杏林大学	東京都
所管する理事	岡本 秀行	川口市保健所 疾病対策課 精神保健係	埼玉県

順不同／2022年6月現在

分野別プロジェクト「貧困問題」活動報告書

2022年6月30日

発行：公益社団法人日本精神保健福祉士協会

作成：公益社団法人日本精神保健福祉士協会 分野別プロジェクト「貧困問題」

* 本報告書を無断で複製・転載することを禁じます